

修明高等学校鮫川校 存続の危機2

# 鮫川校に 寄せる思い



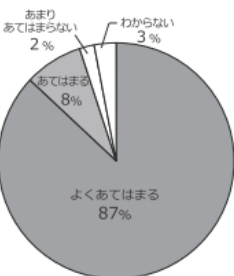
「広報さめがわ」10月号では、修明高等学校鮫川校が存続の危機を迎えていることを紹介し、9月に行われた「第1回学校改革懇談会」の内容を中心に鮫川校が置かれている現状について取り上げました。今月号では、鮫川校と関わりのある3人にそれぞれが鮫川校に寄せる思いを話していただきました。



**鈴木寛重さん**  
平成20年から鮫川校で大豆栽培を指導。西山字馬場在住、69歳。

**通** 学の面などから村内に高校があることで助かっている人はたくさんいるはずですが、この高校で学んだとしても、学ぶことに大きな違いはないでしょう。やるかやらないかの本人の考え方だと思います。むしろ、鮫川校に通うことで「鮫川の高校に通った」という自分の喜びを得られたり、鮫川校でなければできない体験がたくさんあると思います。私は四年前から、鮫川校で大豆栽培を指導しています。大豆栽培では、生徒たちに作物を栽培する喜びをみんな分ち合えるような体験をしてもらいたいと思っています。大豆収穫のとき、生徒たちの喜びよう

はすごいです。作物を栽培するという体験を通して、土のありがたみ、「土ってこんなに立派なものなんだ」と知ってほしいですね。そして、大人になって仮に街に住んだとしても家庭菜園くらいはできますから、その時に、あんな体験したなと思いついてくれればうれしいです。こういう体験は鮫川校だからこそできるものです。農業の専門高校などではできませんが、普通校では体験できないと思います。将来、鮫川校で学んでよかった、鮫川校でなければ学べなかったと思える学校であり続けるためには、鮫川だからできる体験をしなればならないと思います。



【問】 村内に鮫川校（県立高校）があるのはよいことである。

## 9割超が「あるのはよい」

平成23年12月に修明高校鮫川校が村民を対象にアンケートを行いました。アンケートは全世界に配布され、そのうち522通の回答がありました。その中の「村内に鮫川校（県立高校）があることはよいことである」という質問に対して、約9割以上が「あてはまる」と回答し、「鮫川校があるのはよい」という結果となりました。

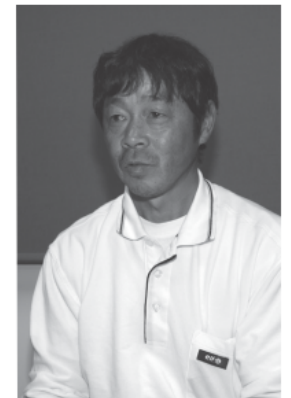


**蛭田昌一さん**  
県立修明高等学校鮫川校同窓会長。渡瀬字田尻在住、74歳。

**私** が通っていた当時は県立崎高等学校鮫川分校でした。まだ舗装されていないデコボコ道を自転車で通学したことを覚えています。同級生は三十人くらいで、鮫川村の人ばかりでした。生徒同士が親しく、優しく、とてもいい雰囲気でした。現在の鮫川校は、農業の実習や老人クラブとのゲートボール大会など、鮫川校ならではの教育をしていると思います。生徒自体もいい感じを受けます。あいさつをするし、真面目。大学に進学した卒業生もいます。村内だけでなく他町村からも多くの生徒が鮫川校に通っています。さらに、三

期試験で入学してきた生徒もいるでしょう。もし鮫川校が廃校となった場合、そうはいった生徒に対して、県ではどういう対応をするのでしょうか。鮫川校があったからこそ、高校に通えたという子は少なくないと思います。なので、鮫川校の廃校によって、高校に通えなくなってしまう子が出てしまうのではないかと不安があります。村外の高校に通わせている家庭でも、鮫川校をなくしたくないと考えている人はいると思いますし、村外から鮫川校に通いたいと考えている人もたくさんいます。このような状況を踏まえて、鮫川校の存続を県などに訴えていきたいです。

**現** 在、四人目の子どもが鮫川校に通っています。経済的にも鮫川校は近くて、通わせるのもいいという理由です。もし、鮫川校が廃校になるようなことになったら、子どもの姿を見かけることが少なくなり、地域自体が寂しくなってしまうように思います。大きな高校で学びたいという子もいれば、鮫川校のような小規模校で学びたいという子もいます。そうやって鮫川校を選択して他町村から通ってくれる子どもたちのためにも、鮫川校を存続させたいという気持ちです。私には、中学二年生の子どももいますが、鮫川校に



**関根正男さん**  
県立修明高等学校鮫川校PTA会長。西山字余所内在住、56歳。

行きたいと話しています。もし、鮫川校が募集停止になっている子どもたちは受験することさえできません。子どもたちの選択肢を残しておきたいです。九月の学校改革懇談会では、少子化が進んでいるという報告がありました。しかし、一クラス四十人という定員は変わることなく、県からは「定員は決められている」との回答。しかし、これからは進んでいく少子化に合わせて、定員を変えていくことが求められると思います。また、「少子化だから」と片づけてしまおうのではなく、少子化に負けないような学校づくりをしていく必要があります。

鮫川校があったから高校に通えたという子もいる 蛭田  
子どもたちの選択肢を残しておきたい 関根  
特色を活かした、鮫川校だからできる体験がある 鈴木